

2002 年 5 月 23 日

地史学実験

フィールドワークレポート

調査日（2002.5.22 当日:曇り時々雨 前日:小雨有り）

物質地球科学科地学系

3 年次 003219 B

中村研究室所属

小嶋 純史

今回のレポートにあたって、1人で巡検をしたため、間違いが多数見受けられると思います。もしお手数でなければ訂正して頂ければ幸いです

理学部専門選択科目

「地史学実験」

(担当：藤田和彦先生・山本聡先生)

第二回フィールドワークレポート

テーマ：西原町小波津に見られる砂泥互層の柱状図を描く

No. 2002052201 (砂泥互層の露頭とパッチ)

場所：沖縄県中頭郡西原町小波津(別紙 STOP 1)県道 155 号線を呉屋向け小波津
団地手前。県道沿いに左手に見える露頭

内容：砂泥互層の観察と考察。

結果：前日も当日も小雨が降っていたので露頭の正確な色ははっきりしなかったが、
砂岩と泥岩の互層は観察できた。(Fig.1)

足元から約 95cm のところに泥岩の薄い層(約 1cm)がある。(Pho.3)

パッチを含めて、泥岩層と一部の砂岩は微褶曲しているようだ。

そして、その褶曲の仕方とパッチの点在の間隔には一定のきまりがあるようだ。

Pho.2 は生痕化石のようだ。

補足：パッチ？(地学事典に載っていないので友人から聞いた説明)は生痕化石や
くぼ地などに溜まった砂が過剰に圧力を受けて固まったものである。

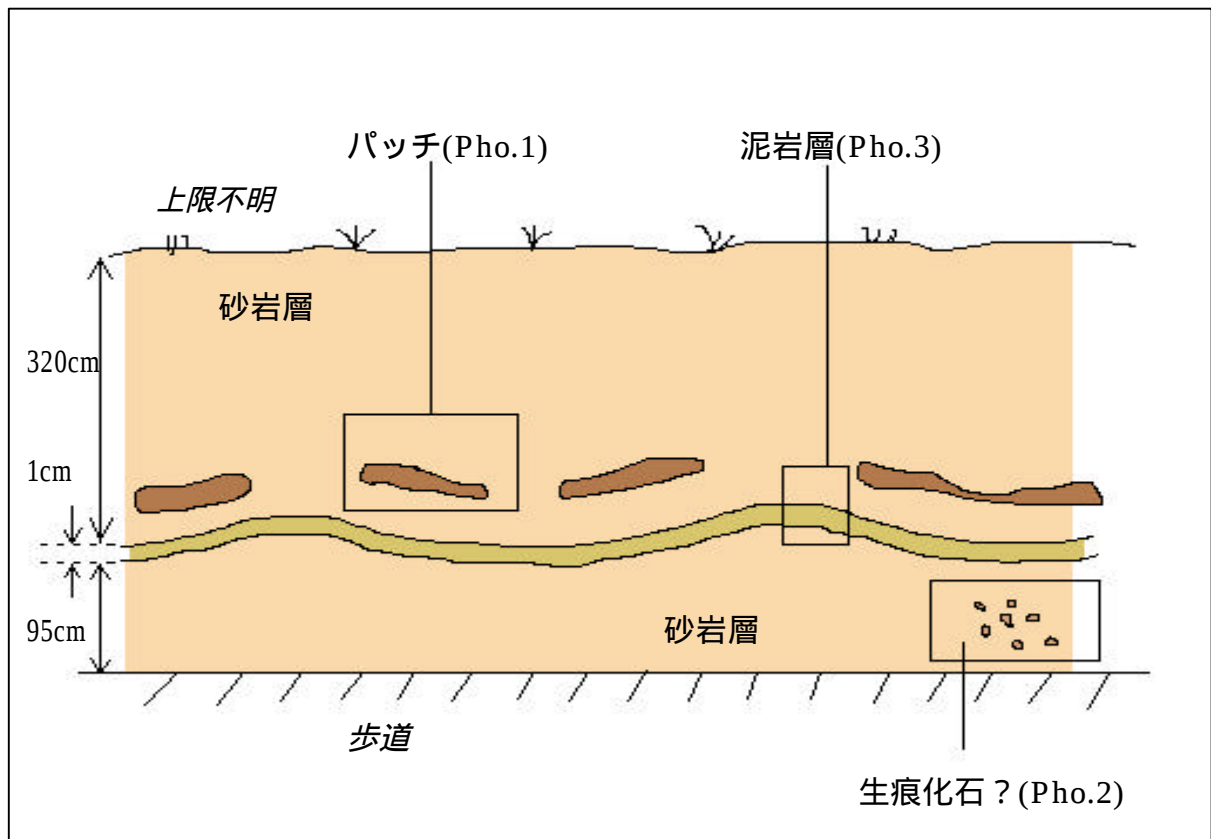


Fig.1 砂泥互層の露頭スケッチ

Pho.1 砂岩のパッチ

Pho.2 生痕化石(?)

Pho.3 泥岩層

No. 2002052202 (砂泥互層の露頭と断層)

場所：沖縄県中頭郡西原町小波津(別紙 STOP 2)県道 155 号線を呉屋向け小波津団地手前。県道沿いに右手に見える露頭。お墓の隣。

内容：砂泥互層の観察及び、断層の考察

結果：前露頭で見られたような砂岩と泥岩の互層が見られた。しかし、前露頭では泥岩層 1 つ、砂岩層 2 つしか見られなかったが、今回の露頭は最低でも砂岩層 5 つ、泥岩層 4 つが観察できる。そして、全体の露頭としては 6.5 ~ 7.0m の砂泥互層である。(Fig.2)

露頭左側に断層が見られる。(Pho.4)

これは断層のズレ具合から正断層と判断した。近づいて断層を観察すると、地層が引きずり込まれた跡がある。(Fig.3)

この方向によって、確かに正断層だと判断できる。

更に、この断層によって本露頭の大部分では見えにくい地層が露出している。それは泥岩の薄い層であろう。(Fig.2 の円で囲まれた部分)

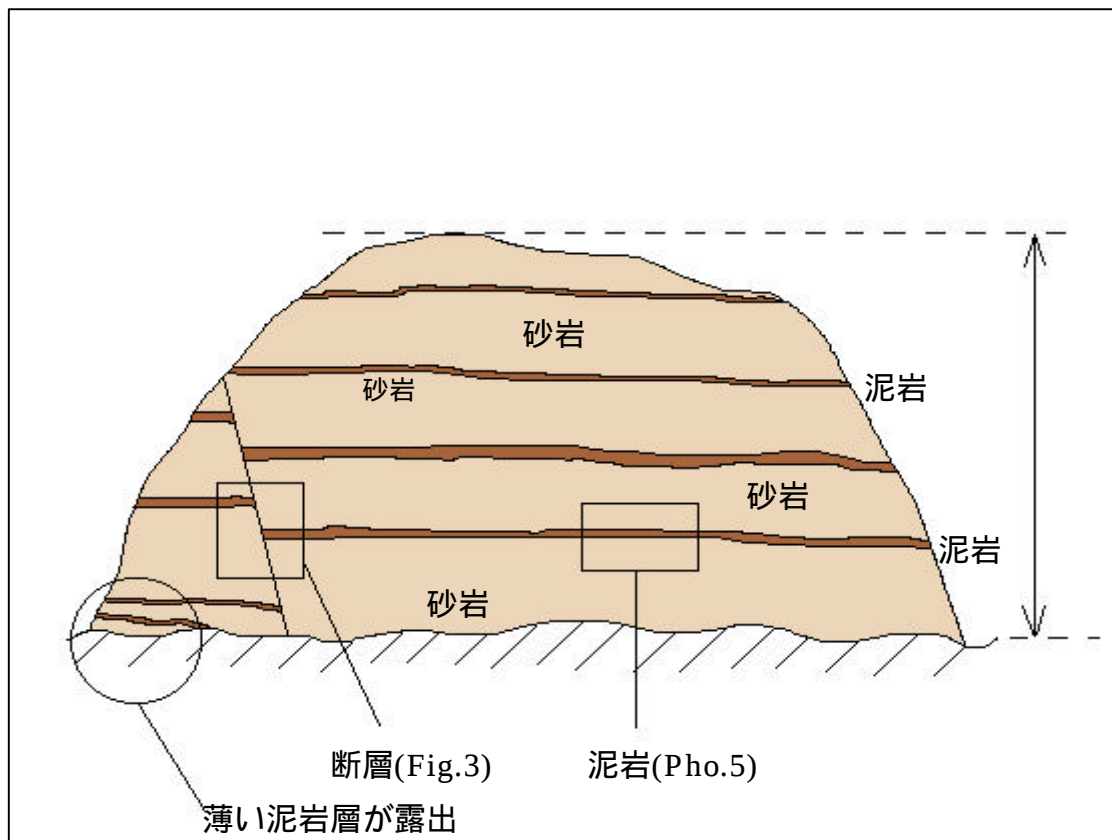


Fig.2 砂泥互層の露頭スケッチ

訂正：友人のノートより、本露頭はタービダイトの繰り返しの層である事が判明しました。よって、級化構造をしており、砂泥互層ではない。

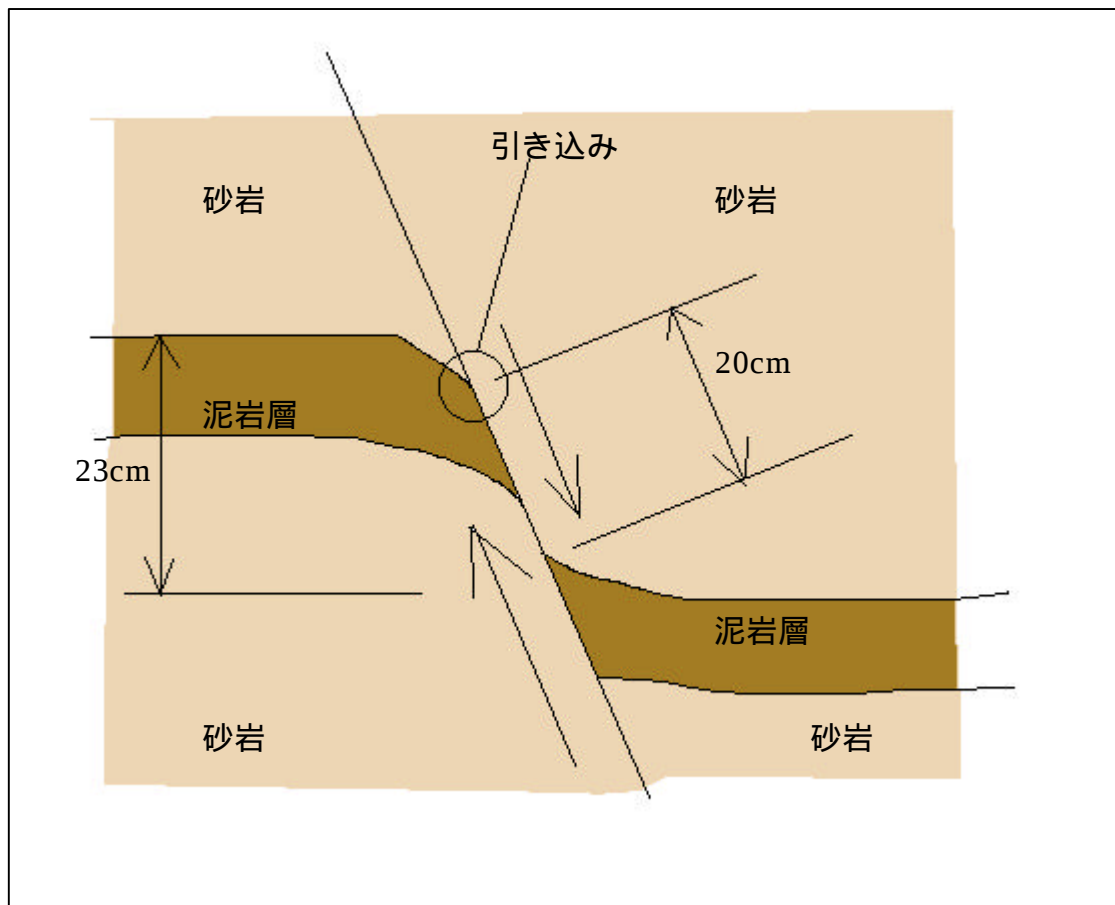


Fig.3 正断層のスケッチ

Pho.4 断層（正断層）

Pho.5 泥岩の層

No. 2002052203 (砂泥互層の露頭)

場所：沖縄県中頭郡西原町小波津(別紙 STOP 3)県道 155 号線が二股に分かれる所の角。

前露頭を過ぎて約 50m 過ぎた歩道とは反対側

内容：本露頭の柱状図を作成する。

結果：各層の厚さは、測るポイントによって多少異なる。よって平均を用いた。
以下の図に示す。(Fig.4)

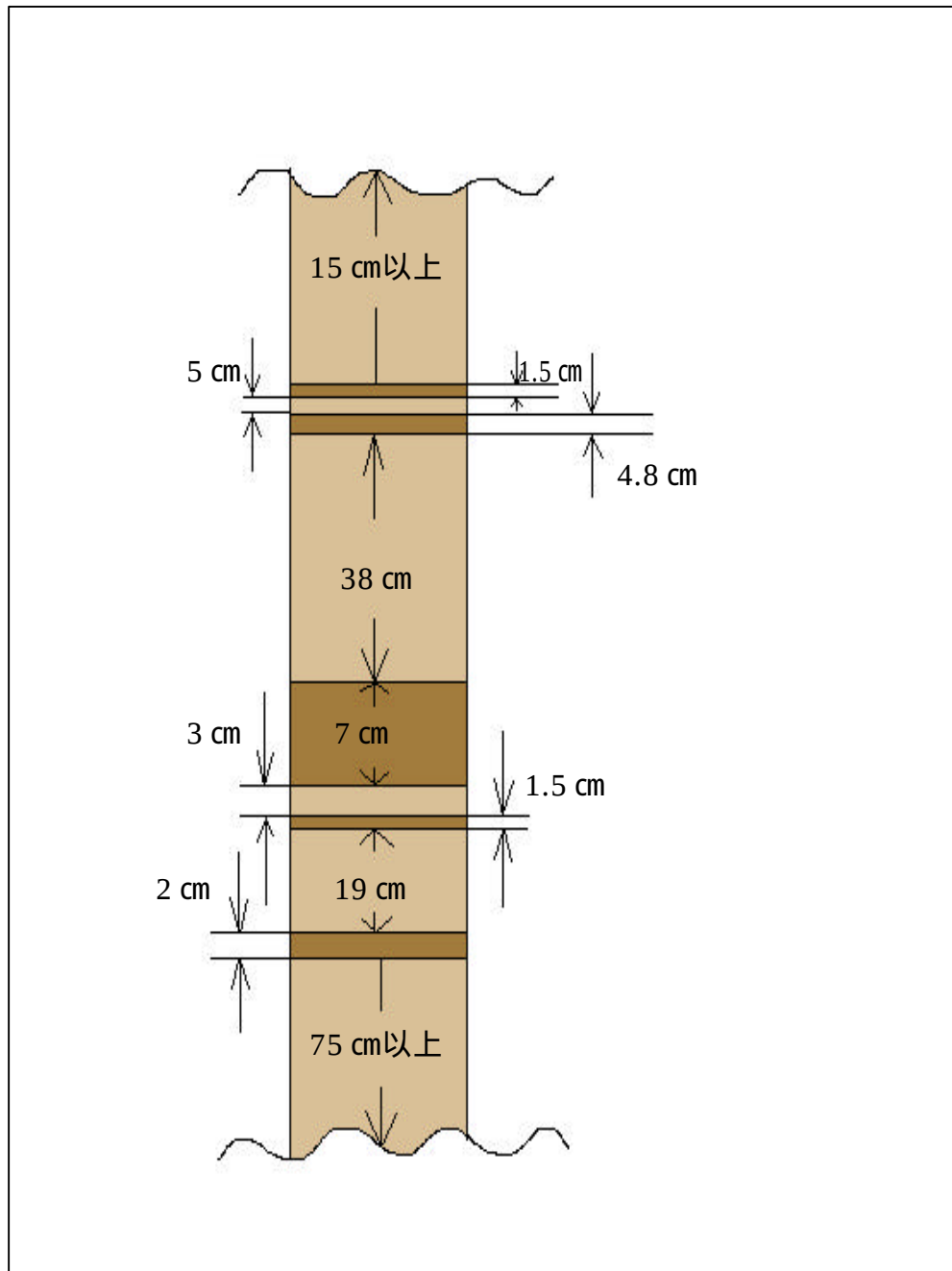


Fig.4 柱状図

まとめ

今回の巡検は砂泥互層やパッチを見る事ができた。巡検当日に参加出来なかったのも、詳しい説明を聞く事が出来なかった。しかし、一人で巡検を行なってみて、自分の不勉強さがわかった。各露頭で毎回説明をしてもらう事になれていて、自分で考える事がなくなっていたと思われます。次回からは自分で考える力を養う巡検を心掛けたいです。

補足

今回の巡検は白橋雅記君のデータを参考に、5月23日に巡検を行いました。この場をかりて謝意を表したいです。また、クリノメーターがなかったため、走向傾斜を測る事は出来ませんでした。話によるとすべて約 S30E8S だったそうです。本来の巡検の日であった5月18日は、前日に尿管結石になり、病院に行くために欠席させていただきました。にもかかわらず、今回のレポートを受け付けていただき、大変ありがとうございました。

参考資料・文献

特になし